

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194100251		
法人名	医療法人 藤花会		
事業所名	グループホーム ウィスタリア (2F)		
所在地	北海道釧路市堀川町8番地30号		
自己評価作成日	平成26年2月24日	評価結果市町村受理日	平成26年4月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0194100251
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・職員が心地よく働ける環境を作ることを入居者様への細やかなケアへ繋がって行くと感じています。
- ・ひとつの事でも皆で情報を共有し、入居者様一人1人に合わせたケアが出来る様に工夫し、ホームの理念のように入居者様と一緒に笑顔で、その日を大事に楽しく過ごせる時間が作れるように努力しています。
- ・その人らしさを大切に日々、支援し、又、認知症を持つ人達の理解に努めています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成26年3月25日

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に目に付く場所へ掲示を行い、又、毎朝の申し送り時には、理念を唱和する事で理念を共有し実践に取り組んでいます		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩やドライブに出掛けている。近所のスーパーに出掛け顔なじみの関係作りを行っています		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を2か月に1度開催、毎回、出前講座等、様々な勉強会を開き、ホーム内の会議にて情報を提供しています		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で、ホームの日頃の様子や行事の内容等を話し、御家族や町内会、民生委員、地域包括支援センターの方に話しをしています。又、開催結果(議事録)は、市役所担当者に報告しています		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へ参加して頂き、ホームの状況や話し合い参加してもらい意見等を頂いている。事故報告書提出や生活保護受給者の相談にて市役所と連携を取っています		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月例会議で身体拘束をしないケアについて話し合う機会を設け、危険防止策が身体拘束につながらないよう理解を深めています		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定例会議などで虐待について学習会を行っているが、、改めて学ぶ機会を作り意識向上を徹底していく事も必要と感じています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に仕事をしている方から話を伺ったり、必要性について学ぶ事も必要と感じています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に重要事項説明書、契約書を元に十分な説明を行い、不安な点や疑問等を伺い説明している。又、入居後であっても、疑問な事があれば随時説明を行っています		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談、苦情窓口を設け、入居者・家族の意見などについて個別対応を行っている。入居者からは直接意見や要望を伺い、取り入れるようにしています		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議時、又、他に気が付いた時に意見交換を行う機会を設けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者がホームの現状をしっかりと把握し心地よく働ける環境を整え仕事への意欲を高められるよう努力しています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加している。又、研修の通知やポスター展示、自主希望を促したり必要講習を受け意欲の向上努めています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市やグループホーム向けの研修、ケアマネ講習会、地域包括主催の情報交換会などに参加しています		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までの生活と出来るだけ変わらない生活を送っていただく為に、入居前に行ける時は自宅に行き、生活環境を見せていただいています。ご本人、御家族様より不安な点や要望等を事前にお伺いし、安心して生活出来るよう努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	毎月、ホームのお便りを発行し、その中に入居者様の様子を書いています。又、面会時には、近況報告をしたり、定期的に入居者様と一緒に家族へ電話をしています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様とお話した時のこと、生活環境など、ご本人がホームで生活された時に適したサービスが提供できるよう努めています		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活、会話、昔話など様々な場面で興味のある事に目を向け、コミュニケーションを取りながら関係作りをしている。ご本人の意思を確認しながら出来る家事職員と一緒にしている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人に関する事は、その都度電話で連絡したり、面会に来られ際に報告し、共有しています。ご家族との交流を持っていただく為、行事の参加を呼び掛けています。又、面会時間の設定はせず、いつでも面会できるようにしています		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人が遊びに来たり、自宅の近くまでドライブに行ったりと、ご本人の要望に添えるようにしています		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、個々を尊重しつつ、職員が間に入り関係性や雰囲気作りを大切にしています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後、家族や転居先から情報を求められた際は、随時対応を行っています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃のケアや入浴時の会話、入居者の様子や表情からご本人の思いを汲み取るよう努め、意向に応えるケアを心掛けています		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活の様子、入居後の様子を見ながらその時々に適した対応ができるよう努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、入居者の心身状態、言動や行動を注意深く観察するように努めている。申し送り、ケース記録にて情報の共有を行っています		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	2か月に1回ユニット会議を開き、個々の入居者様の現状、課題等を話し合う機会を持っている。介護計画の見直し時期にアセスメントを取り直し現状の把握を行っています		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や会話、ケアの実践や結果等について、その都度経過記録を行い職員間で情報を共有するよう努めています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況により、柔軟な対応が行っていけるよう職員同士話し合う機会を設け、アイデアを出しています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパー、ドラッグストアに買い物に出掛けたり、新聞や広報から情報を得てイベント等に参加しています		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問看護が月2回、法人内看護師が週2回来て健康相談を行っている。又、かかりつけ医が違う入居者様も月1回受診しながら適切な医療に努めています。歯科、皮膚科については往診等を利用できるよう支援しています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護が月2回、法人内看護師が週2回来て健康相談を行い入居様の様子や変化を伝え状況を把握してもらい看護的な処置やアドバイスを受けています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院のケースワーカーや担当者、看護師等と情報交換を行い早期に退院できるように努めています		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族へ終末期、重度化におけるホームでの対応についての指針を説明し伝えている。救急搬送時の緊急時対応について事前に家族より方針を伺っています		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議にて急変や事故発生時に備えての学習会を行い、マニュアルをいつでも確認できる所に置いています		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災想定避難訓練を行っている。訓練を重ねることにより職員一人1人が火災に対する意識を持つように努めている。津波対策については見直しを行っています。冬期間は非常口の除雪をコマ目に行っています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレや浴室では、本人の人格を傷つけないよう配慮し尊重しています。居室等に入る際はノックし声掛けをしてドアを開けさせてもらう		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者から職員に気楽に話し掛けられるような雰囲気作りに努めています。希望を聴いたり自己決定できるような聞き方をして、本人の思いをひきださせるよう支援しています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の要望を優先に行うようにしていますが、対応できない時は事情を説明し納得していただけるように支援しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際、服を選択していただきますが、天候等によっては助言する事もあります。入居者様一人1人着用後の身だしなみを見て、必要に応じて声掛けをしたり介助しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人1人に出来る食前、食後のお手伝いをして頂いています。イベントのある日の食事作りやおやつ作りを職員と一緒にやっている。入居者によっては刻み食や水分にトロミをつける等、個人に合わせて提供しています		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のバランスを考え栄養が偏らないように配慮している。食事量や水分量を記録し必要な水分補給に努めています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアをしていだけけるよう声掛けをしたり介助をしています。状態に合わせて義歯止めや洗浄剤を使用し汚れや匂いを防いでいます。又、週に一度、歯ブラシとコップを消毒し清潔に努めています		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を記入し、一人1人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導をしたり、声掛けをさせていただいています。夜間のみ本人の要望に応じポータブルトイレを居室に設置しています		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表に記入し、一人1人の排便パターンを把握し、水分量や食事内容にも気をつけ便秘を予防できるよう努めています。また、3日以上排便が無ければ調性剤による対応をしています		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯をある程度決めているが、毎日入りたいと要望がある方には応じれるよう配慮しています		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人1人の生活習慣を尊重し支援させていただいています。必要に応じて、こちらから休息をお勧めする事もあります		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容と現状が合っていないのではないかと、思う時には主治医に相談しています。又、服薬ミスが未然に防げるよう服薬手順を作成し細心の注意を払っています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人1人の残存機能に働きかけ、生きがいや楽しさを持って生活していけるよう個別ケアに努めています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の希望や要望に、出来るだけ沿えるように努めています。近隣への散歩や買い物同行、外食同行などを行っています		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で財布を所持されている方は、近くのスーパーへ行きお菓子や飲み物の他日常品を購入されています。所持金が少なくなるとホームで預かっているお金を渡しています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人に電話をしたり、手紙や荷物が届いた時は都度ご本人に渡しお礼の電話をかけています。帰宅願望がある時はご家族にも協力していただき、電話をして安心していただいています		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温、湿度計を用い快適な空間になるよう心掛けています。季節の花を摘んで飾ったり、手芸で季節の飾りを入居者様と作って掲示したりしています		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで気の合う人と座りながら話されたり、玄関の窓より外を眺めたりされて、それぞれ好きな居場所を思い通り過ごせるようにしています		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご自宅で使い慣れた物を持って来ていただき使用されています。ご家族やご本人とご相談しながら居心地の良い居室になるよう配慮しています		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、浴室、トイレ等には目印のプレートをつけ場所や物をが解り易くしています。ご本人、ご家族と相談し配置換えをしたり、対策を立てています		